

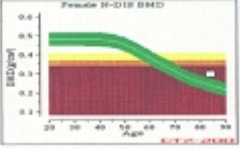






検査項目	検査項目の意味	
24 腹部CT 	<p>上腹部CTで検査可能な臓器は主に肝臓、胆嚢、膵臓、腎臓、脾臓です。それ以外にも副腎、大血管、腹腔内リンパ節、腸間膜にある病変等の観察が可能です。</p> <p>CTはガスや脂肪のためにエコーでは見えにくい深部臓器の描出が可能で、診断に大変役立つ情報が得られます。</p>	
25 内臓脂肪検査 	<p>CTで臍の高さの腹部断層像を撮影し、皮下脂肪と内臓脂肪の面積を計算します。内臓脂肪面積の増加は各種生活習慣病を引き起こします。</p>	
26 骨密度検査 	<p>骨に含まれるカルシウム量から骨の強度や密度を調べる検査です。骨量は成長期に増加し20～40歳代でピークに、それ以降は減少していきます。主に骨量減少によって骨折しやすくなる、骨粗しょう症を診断します。</p> <p>骨量の計測は、若年成人（20～40歳）の数値を基準値として、骨密度が80%異常であれば正常、80%未満で骨量減少、70%未満で骨粗しょう症が疑われます</p>	
27 脳精密検査 	MRI	<p>脳のあらゆる方向・角度から切り取った断面画像が得られます。頭蓋骨を透かして脳内を診断することができ、切開せずとも全方位的に脳腫瘍、脳出血、脳梗塞などの病変の場所、形や広がりを持定できます。</p>
	MRA	<p>MRAでは血管のみを抽出することで、血管の狭窄や梗塞などによる血流異常、くも膜下出血、脳動脈瘤などが一層わかりやすくなります。</p>
	VSRAD	<p>VSRADは、前駆期を含む早期アルツハイマー型認知症（痴呆）に見られる海馬傍回（かいばぼうかい）の萎縮の程度をMRI画像より読み取るソフトで解析し数値化し診断します。</p>
28 頸動脈検査 	<p>頸動脈の形態や血液の流れをみて、動脈硬化の程度を調べます。頸動脈の硬化は将来の脳梗塞、心筋梗塞に関連します。</p>	
29 婦人科検査 	内診	<p>子宮や卵巣の病変を超音波を使ってモニターに写し出します。子宮がんや卵巣がん、子宮筋腫、卵巣のう腫などの診断を行います。</p> <p>子宮の頸部（入り口）の粘膜から細胞を採取して観察する検査です。I～IIの陰性であれば問題ありません。の擬陽性は再検査、IV～VIは陽性で、子宮頸がんが疑われます</p>
	超音波	
30 乳がん検査 	触診	<p>実際に指で触ってみることにより、乳房にしこり（腫瘍）がないか、大きさ、形状、硬さ、辺縁や表面の性状、圧痛の有無、乳頭分泌、へこみやひきつれなど、視診ではわからないさまざまな乳房の状態がわかります。</p>
	MMG	<p>腫瘍の有無、大きさや形、石灰化の有無がわかります。乳がんの約半数は石灰化しますが、石灰化したものは、触診では発見できない15mmくらいの小さいものでも発見できます。</p>

診断

以上それぞれの結果に基づき、ドック専門医師が診断を行います。



アドバイス

生活習慣病コースについては、それぞれの検診成績に応じて生活習慣病専門看護師と栄養士よりアドバイスさせていただきます。

アドバイスを参考に生活習慣を正しましょう。

